

寺だより

23/06/22
第110号

真宗大谷派
青龍山西光寺
珠洲市正院町正院

能登でM6.5の地震発生！

珠洲で震度6強 夜には震度5強



柱が折れ傾いた本堂

5月5日午後二時半すぎ、珠洲市を震源とする地震が

110号あり、珠洲では震度6強の揺れを観測しました。夜に入っても震度5強の地震がありました。

この地震で一人の方が亡くなられました。また、全壊・半壊など多くの建物にも被害が出ました。

多くのご門徒の皆さまの家屋におきまして、大変な被害を受けられました。

物心両面に被災されたご門徒の皆様におきまして、心からお見舞い申し上げます。

西光寺でも多くの被害が出ました。古い木造建築ですので、至る所壁の崩落やひび割れがあります。また、建物のゆがみがあちこちでできました。

門法の場所・本堂は、外側の二本の柱が折れ、南側（海側）に傾きました。応急措置として、折れた柱にもう一本柱を添えています。



倒壊した宮殿

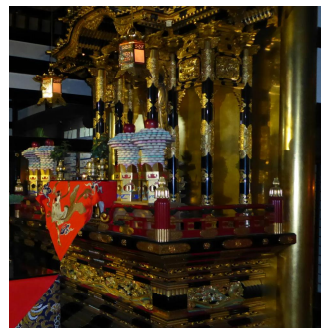
そして、真宗寺院では、阿弥陀如来像を安置安置する仏具を「宮殿（くうでん）」といいます、その大事な宮殿が阿弥陀さまと共に倒壊しました。

宮殿をはじめとするたくさんの仏具が損壊し修復不能のものも数多くありました。幸いなことに数え切れにくい先達が手をあわせてこられたご本尊阿弥陀さまの損傷は修復可能という事です。

西光寺本堂は、約四〇〇年以上も前に、越前の国より運ばれ建立されました。以来、ご門徒さんの努力により、その姿を現在に留め、阿弥陀さまをお守りしてきました。

過疎化・少子高齢化・門徒戸数減少の中で、どんな形でこの西光寺を次の世代に渡すのかということは大変難しい課題です。

西光寺の未来については、時間をかけて皆様と話しながら決めていきたいと思います。



倒壊前の西光寺宮殿

本山災害見舞金申請のお知らせ

このたびの地震で被災されたご門徒さんで「罹災証明書」の被害区分に「全壊」あるいは「半壊」と記載された方には、本山より災害見舞金が出ます。また、ご本尊が被害にあわれた方には、三つ折りご本尊が授与されます。



三つ折りご本尊
縦 16.4 × 21.6

該当される方は、西光寺までご連絡下さい。

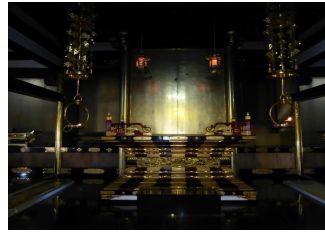
締め切りは、6月28日（水）

西光寺永代経法要のご案内

亡きお方をご縁として

6月27日(火)・28日(水) 午後2時より
西光寺広間にて

法話 福谷祐正先生(宝達志水)



本堂内陣の様子 6/17 現在

6月26日、28日
まで三日間予定し
ていました永代経
法要を、二日間に
短縮してお勤めさ
せていただきます。
なお、本堂は使
えないため、広間
にて行います。

6月28日には西光寺門信徒総追悼法
要も併せてお勤めします。お参りの皆
さまには、読経中お焼香をして頂いて
おります。

どうぞ皆さま、お誘い合わせの上、
お参り下さい。

お参りは午後二時からですので、受
付は二日間とも午後からになります。
本堂正面より入り、広間の方へ回
り下さい。

永代経法要とは



法話に耳を傾ける参詣の皆さん 2022/10/2

永代経には、先
達の「お寺の本堂
に永代に渡つて、
仏さまの教えが子
々孫々に続いてい
きますように」、
そこからまた「お
念仏の道場である
お寺が永きに渡つ
て存続し、お念仏
の教えが繁栄し続
けるように」とい
う願いが込められ

ています。
亡き人、ご先祖さまに「ありがとう
ございます」と感謝申しつつ、仏法聴
聞のご縁にさせていただきます。

■ 前年度物故者追悼法要

6月27日(火)午後二時

昨年四月より今年三月に亡くなられ
たご門徒さん(14名)の追悼法要です。
永代経法要と併修します。

法要の初めに、亡くなられた方のお
名前を読み上げます。お勤めとともに、
ご遺族の方々にお焼香をしていただき
ます。



前年度物故者追悼法要 2022/10/1

法要終了後、
ご遺族の方に
は、お供えをお
渡ししますの
で、お持ち帰り
いただきます。
物故者のご家
族の方には一様
に、ご参拝のご
案内をしてお参り
下さいます。

永代経志・特別懇志について

近親者が亡くなられた事をご縁に、
故人の追慕から納められる特別な懇志
を、『永代経志』といえます。

『永代経志』を納められますと、永
代経志札を本堂に上げさせていただきます
ています。そして、永代経法要の期間
中の前年度物故者追悼法要とは別に、
日時を合わせて来寺していただき、特
別永代経のお勤めにお参りいただきま
す。お勤めの後、お備えしたお仏飯と
西光寺で作った精進料理を参詣の皆様
にいただいております。

永代経志・特別懇志を考えられてい
らっしゃる方は、西光寺までお問い合
わせ下さい。

蓮如忌・へんじやまいり

無事勤まる！



御書様 朱傘の下、瓶子家から西光寺へ

今年も4月24日・25日の二日間、蓮如忌のお参りを勤めることができました。

年々桜の開花時期が早くなり、お内陣の花に「桜」が使えるかどうか心配するようになりました。今年も桜の花が早く咲き、心配していたのですが、お花切りのみな桜が準備でき、

皆さんのご苦労により、きれいに仕上がりました。

24日・25日は、瓶子秀尚さん宅でのお勤めから始まり、御書様の行列、西光でのお勤めの後、住職の御書様拝読、輪島市門前からお越しいただいた廣陵兼純先生の法話の後、御書様は瓶子さん宅へお帰りになりました。

25日は、正院雅楽会の皆さまにも参加していただきました。また、お導師

様の光行寺住職（蛸島）さんをはじめ、法融寺（小木）・乗光寺（飯田）・慶西寺（熊谷）・高福寺（小路）・長覚寺（川尻）・勝安寺（蛸島）・広栄寺（大谷）・願念寺（大谷）の住職さん方・称名寺（加賀市）の若院さん、そして広栄寺前住職さんにお参りいただき、おごそかなお勤めをいただきました。皆様には仏供米並びにローソク料の志納をいただき、ありがとうございます。



4/25 節談説法を聞く参詣の皆様

〓二〇二二年度蓮如忌志納報告〓
仏供米代（お金で志納された分）

一四八戸 一一五、五〇〇円
（一三三八戸 一一八、五〇〇円）

ローソク料

二五四戸 九二三、〇〇〇円
（二六〇戸 九三三、五〇〇円）

お賽銭

二七、九〇〇円
（二八、八五〇円）
（ ）内は二〇二二年度

■震災に思うこと 西光寺住職

地震発生時、私は外で草むしりをしていました。次の日、灯籠が作業していた所のすぐ近くに倒れているのに気づきました。ただ思うことは、『自分が無事だったのは寺や門徒さんのためにしつかりやっていけということだ』ということでした。

先人の方々が大切に受け継いでこられた浄土真宗の教えを、伝えていくことが後に続く私たちの使命であることを心に刻み、お念仏申す道を歩むことをあらためて誓いました。

一、自分の殻に閉じこもることなく、穏やかな顔と優しい言葉を大切にします。

一、微笑み語りかける仏さまのように。一、むさぼり、いかり、おろかさに流されず、しなやかな心と振る舞いを心がけます。

一、心安らかな仏さまのように。一、自分だけを大事にすることなく

人と喜びや悲しみを分かち合います。慈悲に満ちみちた仏さまのように。一、生かされていることに気づき、日々精一杯つとめます。

一、人びとの救いに尽くす仏さまのよう

維持費集金 六千円

西光寺護持委員会より

維持費は、前年度と同額の四、〇〇〇円です。また、地震被害修繕費（二回目）は、二、〇〇〇円です。

合わせて六、〇〇〇円を六月に集金させていただきます。皆様には震災で何かと大変かと思いますがよろしくお願ひいたします。

六月中に、各町内護持委員さんが、集金に回られますので、御協力お願いします。

護持委員さんのおいでない町内の方、また遠方の門徒さんには申し訳ありませんが、直接西光寺あるいは郵送でお納めいただければ幸いです。

■ 法和会 七月再開予定！

地震のため休会していた法和会を、7月8日（土）・西光寺広間にて再開します。

法話は「おとりつぎ」とも言います。住職自身が阿弥陀さまの教えを味わい、喜ぶ。その喜びを阿弥陀さまにかわって皆さまに「おとりつぎ」をします。法話を聞く上で大切なことが二つあります。

その一つは、ありのままの私の心で

あり私の姿です。教えを鏡として自分の姿を知ることです。知らなかった、気づかなかった自分が教えられます。

もう一つは、そのありのままの私の身（心、姿、ふるまい）にかけられている仏さまの願いです。私たちのいろいろな思いに、仏さまの教えは正面から応えてくださっています。そして私たちを救い、護ってくださいるはたらくをいただくことができます。

それは元氣になれる力となるでしょう。

休憩時には、大正琴の伴奏による歌。どうぞお誘い合わせの上、ご参加下さい。

◆ 墓地管理委員会からのお知らせ

◆ 墓地清掃について

体に揺れを感じる地震が相次いでおり、地震は当分収まらないという見解も出ております。そこで、安全面を考慮し、例年6月中にシルバー人材センターに依頼している墓地清掃を当面見合わせます。

◆ 二〇二三年度墓地代について

西光寺維持費の集金に合わせたいと思いますので、お墓の修復など大変かと思いますがよろしくお願ひいたします。

II 編集後記 II

日本は地震大国であり台風大国です。日本人の心と身体は昔より揺れ動く大地や自然災害に鍛えられてきたと言ってもいいと思います。だから日本人は日頃からお天道様や八百万の神々に畏怖と感謝の気持ちを持ってきたのかもしれない。

その中から「おかげさま」「お互いさま」「ありがとう」という相手を思いやる気持ちが育まれてきたように思います。

それが災害時には途方もない自制力や忍耐力、協力し合う心を発揮するように感じます。

それはまた「和を以って貴しとなす」という聖徳太子の仏教徒としての原点でもあります。

自分さえよければいいのだという事ではなく、常に周りに対する配慮が慈しみの心として現れるのだと思います。

いろんな方々からお見舞いや励ましを受けて強く思うことです。

南無阿弥陀仏